

Japanese Utility Model No. 3068869

Issue Date: March 1, 2000

Filing Date: November 10, 1999

Application No: 11-8584

Applicant: Kabushiki Kaisha Maru Shoten

Title: Adhesive Sheet

ABSTRACT

The invention relates to an adhesive sheet that can be easily adhered to an adherend.

The adhesive sheet 100 is composed of a flexible sheet material 110 made from wood, an adhesive layer (not shown) applied to a rear surface of the sheet material 110, and a release sheet 120 attached to the adhesive layer. Cutting lines 121A, 121B and 121C are formed in the release sheet 120, so that the release sheet 120 can be divided to four release sheet portions 120A, 120B, 120C and 120D.

According to the adhesive sheet 100 thus constructed, the sheet material 110 can be adhered to the adherend while removing or peeling the release sheet 120 (four release sheet portions 120A, 120B, 120C and 120D) in sequence. Therefore, the sheet material 110 can be easily and reliably adhered to the adherend without any specialized skills.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3068869号
(U3068869)

(45) 発行日 平成12年5月26日 (2000. 5. 26)

(24) 登録日 平成12年3月1日 (2000. 3. 1)

(51) Int.Cl.⁷
E 0 4 F 13/08
C 0 9 J 7/02
E 0 4 F 13/00

識別記号
1 0 1

F I
E 0 4 F 13/08
C 0 9 J 7/02
E 0 4 F 13/00
1 0 1 K
Z
B

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願平11-8584

(22) 出願日 平成11年11月10日 (1999. 11. 10)

(73) 実用新案権者 599158801

株式会社丸商店

奈良県吉野郡吉野町丹治69

(72) 考案者 前平 将清

奈良県吉野郡吉野町丹治69 株式会社丸商店
店内

(74) 代理人 100085936

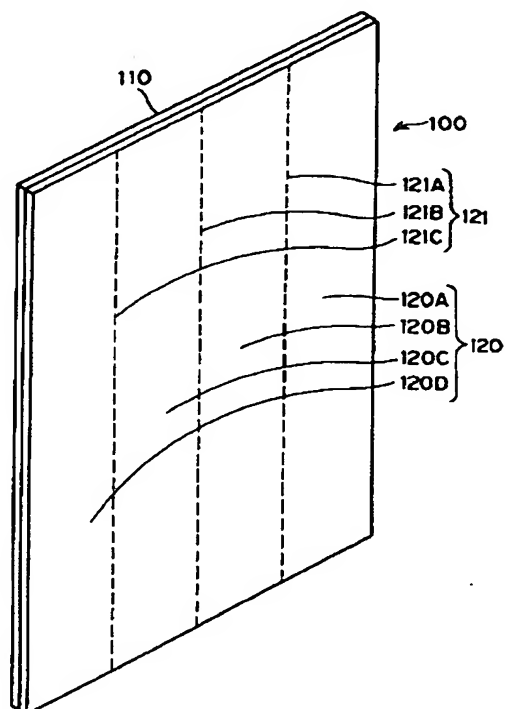
弁理士 大西 孝治 (外1名)

(54) 【考案の名称】 シート状貼着物

(57) 【要約】

【目的】 一般の素人でも1人で貼り付け作業を行うことができるようなシート状貼着物とする。

【構成】 シート状貼着物100は、木材を薄く削った薄板である柔軟性を有するシート状の被貼着物110と、この被貼着物110の裏面側に塗布された接着剤(図示省略)と、この接着剤をカバーする剥離紙120とを備えており、前記剥離紙120には、全体を複数回に分けて剥離することができるように3本の切断線121A、121B、121Cが設けられている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

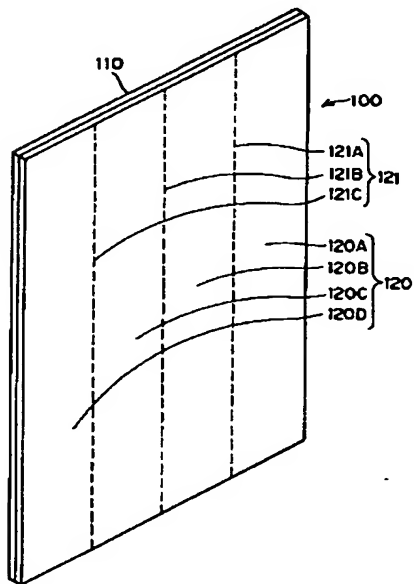
【請求項1】 柔軟性を有するシート状の被貼着物と、この被貼着物の裏面側に塗布された接着剤と、この接着剤をカバーする剥離紙とを具備しており、前記剥離紙には、全体を複数回に分けて剥離することができるように切断線が設けられていることを特徴とするシート状貼着物。

【請求項2】 前記被貼着物は、薄板であることを特徴とする請求項1記載のシート状貼着物。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施の形態に係るシート状貼着物の裏 *

【図1】



2

* 面側からの概略的斜視図である。

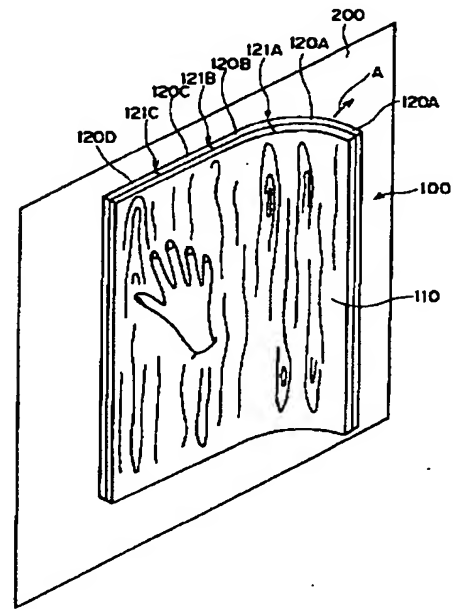
【図2】 本考案の実施の形態に係るシート状貼着物の貼付作業を示す概略的斜視図である。

【図3】 本考案の実施の形態に係るシート状貼着物の貼付作業を示す概略的斜視図である。

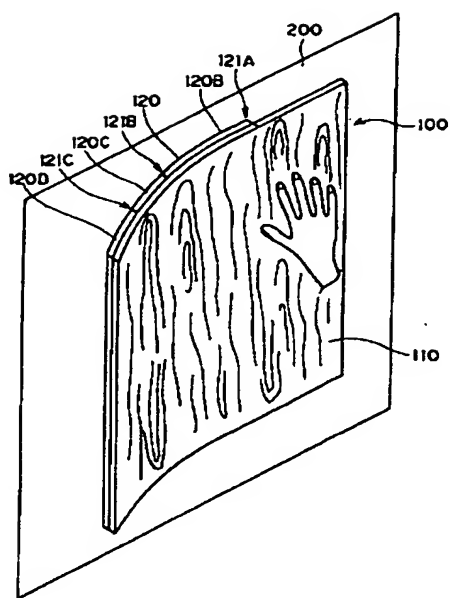
【符号の説明】

100	シート状貼着物
110	被貼着物
120	剥離紙
200	壁

【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、壁等に貼着するシート状貼着物に関する。

【0002】

【従来技術】

リフォーム等のために壁に柔軟性を有するシート状の貼着物を張り付けることがある。例えば、壁紙である。この壁紙には、裏面側に予め接着剤が塗布されているとともに、工事までに接着剤が乾かないようにするためと他の部分に不用意に接着されないようにするためとに、接着剤は全面的に剥離紙でカバーされている。この壁紙は、すべての剥離紙を剥離して接着剤を露出させた状態で貼り付けられる。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、すべての剥離紙を剥離すると、作業者が手で押さえている部分は正確に貼れるが、手で押さえていない部分が不用意に壁にくっつくことがある。このため、壁紙の貼付作業は熟練が必要なものであり、一般の素人には行いにくい作業となっている。

【0004】

本考案は上記事情に鑑みて創案されたもので、一般の素人でも1人で貼り付け作業を行うことができるシート状貼着物を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本考案に係るシート状貼着物は、柔軟性を有するシート状の被貼着物と、この被貼着物の裏面側に塗布された接着剤と、この接着剤をカバーする剥離紙とを備えており、前記剥離紙には、全体を複数回に分けて剥離することができるように切断線が設けられている。

【0006】

【考案の実施の形態】

図1は本考案の実施の形態に係るシート状貼着物の裏面側からの概略的斜視図、図2は本考案の実施の形態に係るシート状貼着物の貼付作業を示す概略的斜視図、図3は本考案の実施の形態に係るシート状貼着物の貼付作業を示す概略的斜視図である。

【0007】

本考案の実施の形態に係るシート状貼着物100は、木材を薄く削った薄板である柔軟性を有するシート状の被貼着物110と、この被貼着物110の裏面側に塗布された接着剤（図示省略）と、この接着剤をカバーする剥離紙120とを備えており、前記剥離紙120には、全体を複数回に分けて剥離することができるように3本の切断線121A、121B、121Cが設けられている。

【0008】

被貼着物110は、例えば杉や檜、あるいは樺等の木材を約1～2mm程度に薄く削ったものである。従って、この被貼着物110には、天然の木目があらわれ、木の芳香がするものである。

【0009】

かかる被貼着物110の裏面側に塗布される接着剤は、最近話題のホルムアルヒド等の健康に害を及ぼす可能性があると考えられる合成樹脂系のものではなく、天然素材から構成される従来からの自然のものが適している。

【0010】

この接着剤は露出していると硬化して接着という作用を果たさなくなるので、乾燥防止のための剥離紙120でカバーされている。しかも、この剥離紙120には一定間隔で切断線121A、121B、121Cが設けられている。従って、この剥離紙120は、各切断線121A、121B、121Cの部分から、各部分120A、120B、120D、120Dの4枚に分離して剥離することができるようになっているのである。

【0011】

このように構成されたシート状貼着物100を壁200に貼り付ける手順について説明する。

まず、剥離紙120のすべての部分120A、120B、120D、120D

が付いたままの状態シート状貼着物100を壁200に押しつける。この状態でシート状貼着物100の壁200に対する位置を決定する。

【0012】

次に、剥離紙120の最も端に位置する部分120Aを図2に示す矢印A方向に剥離する。この際、剥離される部分120A以外の部分120B、120D、120Dは、壁200に押しつけたままの状態を保持する。

【0013】

次に、図3に示すように、最も端の部分120Aを剥離して露出した接着剤を壁200に押しつけて貼り付ける。これで、シート状貼着物100の一部、すなわち最も端の部分が壁200に貼り付けられたことになる。

【0014】

次に、図3に示すように、シート状貼着物100の貼り付けられた側を手で押さえつつ、反対側から次の部分120Bを剥離し、接着剤を露出させて壁200に貼り付ける。この作業を反対側の端の部分まで繰り返すことでシート状貼着物100の被貼着物110全体を壁200に貼り付けることができる。

【0015】

なお、上述した実施の形態では、横方向に順番に貼っていくようにしたが、縦方向に順番に貼っていくようにしてもよいことは勿論である。

【0016】

また、上述した実施の形態では、シート状貼着物100は壁200に貼られるものとして説明したが、例えば幅108mm、長さ寸法を2000～3000mm程度にすると、柱や鴨居や窓のサッシ等に貼り付けるものとして使用することもできる。この場合には、幅寸法が小さいので、中央に20mm間隔で長手方向に沿った2本の切断線を入れておく。すなわち、2本の切断線の間部分の剥離紙を剥がした状態で柱等に仮止めとして固定した後、両側の2枚の剥離紙を剥離して本格的に固定するのである。

【0017】

さらに、被貼着物110としては、上述した薄板ではなく紙、プラスチック板等の柔軟性を有する素材、すなわち手で支えていないと自然と垂れ下がるような

素材であればなんでも適用することができる。

【0018】

【考案の効果】

本考案に係るシート状貼着物は、柔軟性を有するシート状の被貼着物と、この被貼着物の裏面側に塗布された接着剤と、この接着剤をカバーする剥離紙とを備えており、前記剥離紙には、全体を複数回に分けて剥離することができるように切断線が設けられている。

【0019】

従って、従来のように、剥離紙をすべて剥離してから貼り付け作業を行う必要がなく、徐々に剥離して貼り付けていくことができるので、熟練していない一般の素人でも簡単に貼り付け作業を行うことができる。特に、リフォームを自分で行おうとする一般の主婦にとっては非常に役に立つものとなる。

【0020】

また、前記被貼着物が薄板であると、近頃のエコロジー重視のインテリアにマッチしたものとなり、大きな需要が見込まれる。